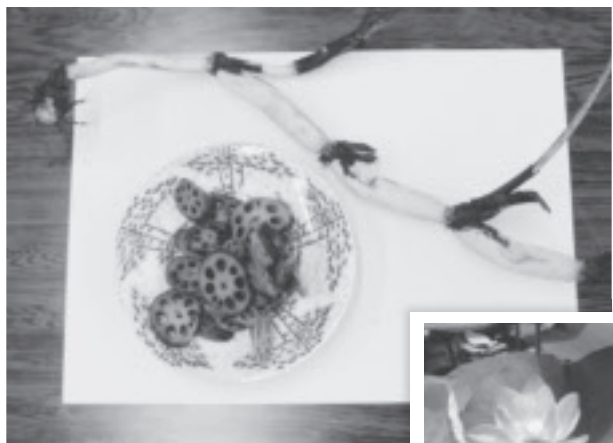




▲二千年ハスのレンコンと煮付け料理  
▶聖光寺の池で、ピンク色の花を  
初夏に咲かせます



## 健康で長生きするように！

### 二千年ハスを食べる会

6月下旬から7月中旬頃までピンクの美しい花を咲かせ、「二千年ハス」と呼ばれている古代ハスを食べる会が3月12日多久公民館で開かれました。このハスは多久町聖光寺の住職野中寛応さんが、1995年に千葉で発見された大賀ハスにゆかりのある古代ハスを、島根県の荒神谷史跡公園から譲り受けた種子から育てられたものです。当日はハスの地下茎部分（レンコン）を食材に、多久町婦人会の皆さんが「健康で長生きするように」と願いをこめて、お煮しめ料理を作り、集まったみなさんに初振舞い。野中住職も「一度、二千年ハスを調理してみたかった。量が少ないので、料理を年ごとに違うようにしてチャレンジしていきたい。弥生人のロマンを感じて味わってほしい」と語られました。

## 2 夫妻の迅速な初期消火に感謝

### 佐賀消防局長から感謝状贈呈

佐賀広域消防局多久消防署で3月5日、初期消火に協力された多久町栄町の瀬戸口宗俊・光子ご夫妻、成田啓造・フジ子ご夫妻への感謝状贈呈式がありました。

2夫妻は、1月28日夜、近所で発生した建物火災にいち早く駆けつけ、火災の拡大防止に尽力。瀬戸口宗俊さんは、多久市の地域防災士第1号資格者で、「火災の体験は初めてだったけど、現場に入る時、右手にホース、左手に毛布をつかんで入り、頭上訓練が役に立った」と話され、「当たり前のことをしてただけで、近所のチームワークが良かった」と話され、最小限にとどまった当日を振り返り、安堵されていました。

山田孝雄佐賀広域消防局長は、「初期消火が遅れていれば大惨事になっていた」と話し、迅速な消火活動の功績に感謝しました。



▲山田消防局長をはさんと、右側が瀬戸口さんご夫妻、左側が成田さんご夫妻

## 思い出をかかえて、今飛び立つ

### 小中学校で卒業式

市内の中学校で3月13日に、小学校で17日にそれぞれ卒業式が行われ、中学3年生218人、小学6年生244人に卒業証書が授与されました。

中央中学校では129人が卒業を迎え、保護者や来賓、先生方が見守る中、小野茂校長から一人ひとりに卒業証書が手渡され、卒業生は一礼して受けとると、少し照れた笑顔を在校生や保護者に見せていました。小野校長は「思いやり・感謝・感動する・自らを律する・正直の5つの心を決して忘れないで社会に進んでください」と、はなむけの言葉を贈り、卒業生達はそれぞれの希望を胸に、新しい道を歩き出しました。

◀卒業証書を受け取り、緊張も解けて笑顔で自席に戻る卒業生。  
(中央中学校)

